≪発表要旨≫

ペルー近代に関する諸問題

― マリアテギ・アヤ論争 ―

辻　豊治

Ⅰ．序

従属・低開発地域の例に漏れず，ペルーにおける近代史の幕開けは，帝国主義による経済支配が主要契機となった。しかしこの帝国主義による「近代化」が国内における単一的な資本主義形成に向かうものではないことは，歴史が証明しているところである。このような構造の形成，すなわち近代・資本主義部門と前資本主義部門の並存・対立・相互作用こそ従属・低開発社会を特徴づけるものである。

ここでとりあげるマリアテギ・アヤ論争とは，１９２０年代のペルーにおける従属，低開発の現状分析，革命戦略，変革運動の主体・形態をめぐってマルクス主義政党であるペルー社会党に依拠するマリアテギ，および民族主義政党であるアプラ（アメリカ革命人民同盟）を代表するアヤ＝デ＝ラ＝トーレの間で闘わされた論争を意味する。

Ⅱ．論争の経過

クラレンはアプラの成立を，帝国主義の進出がもっとも顕著であったコスタ北部トルヒーヨにおける民衆運動との関連においてみごとに描き出した。１９２０年代前半，マリアテギはゴンサレス＝プラダ人民大学をつうじてこのアプラと共闘するが，１９２８年４月に決別するに至る。同年９月，マリアテギは新しい政党（ペルー社会党）を設立する。

Ⅲ．論争の争点

Ａ．ペルー社会の規定

マリアテギ，アヤ両者とも当時のペルー社会を外来の資本主義（帝国主義）と従来の前近代社会の二つの異質な社会から構成される複合社会であると考えた。しかし，その力点の置き方に違いがみられる。すなわち，アヤにおいては

帝国主義の存在に最大の力点をおき，帝国主義による民族抑圧という視点から国家論，運動論，階級論を展開する。一方，マリアテギにおいては，ペルーにおける低開発を前近代社会（彼のいう植民地封建制）に由来するものとする。そして，帝国主義はこの封建勢力と結合して，ペルー社会内部の支配構造の一部を形成し，民族および階級抑圧を招来するとする。

B．帝国主義論

しかしアヤの帝国主義論においては，カルロス・フランコが指摘しているように，その二面性の強調に注目しなければならない。つまり，帝国主義がもつ破壊性と，後進国に資本と技術をもたらす進歩性である。これにスターリン的な発展段階論が加わると，帝国主義をコントロールすることによる自立資本主義の実現への戦略が引き出されるのである。一方，マリアテギは帝国主義段階において真の世界市場が形成され，もはや自立的な民族資本主義の樹立は不可能であるとし，ただ「社会主義革命だけが，帝国主義の前進を真に効果的に阻止しうる」とのべている。

C．階級同盟

アヤはアプラを中産階級を中核とする労働者・農民の反帝統一戦線であると規定した。したがって，「アヤは，プチブルのもっとも急進的な部分の利害を代表していた」（ヘルマナ）。一方，マリアテギは当初，アプラとほぼ共通する階級の組合わせを考えていたが，中産階級の革命における限界性をしだいに認識するに至っている。

D．ペルー革命の性格と党概念

アヤはペルー革命の性格をブルジョア革命から社会主義へ至る二段階革命として位置づけたが，マリアテギが洞察したように，このアプラの近代化思想は封建的関係が廃棄され，資本主義的関係が一般化するとともに，一定の工業化を促進する新しい帝国主義支配にのみ込まれてしまう。アヤにおいての革命のモデルはメキシコ革命と中国国民党であった。アヤにとってメキシコ革命の教訓が組織化の必要性であったところから，運動体としてのアプラの党への転化が，１９２８年の民族解放党結成の構想を経て，３１年のペルーアプラ党結成へと結実するのである。その政治プログラムは，アプラ党の国家の掌握，さらに民族形成としての自立的資本主義の成立である。この運動論をめぐる論争が両者の決別の直接契機となった。

マリアテギの立場は，「自由主義の使命が社会主義によって実現される，封建的国家から社会主義への直接的移行」（メセゲル）としての非資本主義発展の立場である。こうしてマリアテギはアプラとの決別の後，「都市・農村・鉱山の労働者大衆，インディオ農民」の利益と願望を代弁する党を結成し，その名称は「ペルーの具体的現状に応じて」ペルー社会党と命名するのである。

Ⅳ　結語

１９２０年代のマリアテギ・アヤ論争は，ペルーの従属・低開発をいかに分析し，変革していくかをめぐる政治論争であるが，従属・低開発の現状が存在する限り，論争の当事者が死んだということで終止符が打たれることはない。このことは最近この論争に関する論稿が数多く発表されていることからも推察される。われわれは現代的な視点からこの論争を照射してみる必要がある。

主要参考文献

Aricó, José. "Mariátegui y los origenes del marxismo latinoamericano," Socialismo y Participación, 5, dic., 1978.

Barba Caballero, José A. Haya de la Torre y Mariátegui frente a la historia, Imp. Amauta, 1978.

Franco, Carlos, "Mariátegui–Haya : surgimiento de la izquierda nacional," Socialismo y Participación, 8, sep., 1979.

Germana, César. "La polémica Haya de la Torre–Mariátegui : reforma o revolución en el Perú, "Cuadernos Sociedad y Política, No.2, nov., 1977.

Haya de la Torre. Víctor Rául. Obras completas, Tomo 1–7, Editorial Juan Mejia Baca, 1977.

Luna Vegas, Ricardo. Mariátegui, Haya de la Torre y la verdad historica, Retama Editorial, 1978.

Klarén, Peter F. Modernization, Dislocation, and Aprism, Univ. of Texas Press, 1973.

Mariátegui, José Carlos. Ediciones populares de las obras completas, Tomo 1–20, Bib. Amauta, 1972–74.

Meseguer Illan, Diego. José Carlos Mariátegui y su pensamiento revolucionario, Instituto de Estudios Peruanos, 1974.